

校内研究会

7月17日

7月17日 校内研究会

高学年分科会授業提案

第5学年 道徳 主題名「男女仲良く協力しよう」
資料名 言葉のおくり物 (文溪堂 22年度版)

2-(3) 友情・信頼 男女の協力
指導者 曾我 泉

授業の流れ

- 1 クラスの友達とのやりとりを思い出す。
- 2 「言葉のおくり物」を聞いて話し合う。
- 3 自分たちのことについて考える。
- 4 教師の説話を聞く

協議会

<分科会提案>

登場人物を自分のこととしてとらえ考えを交流させることにつなげさせるために、資料による追体験の焦点をすみ子にあてた。また、ワークシートを活用することにより、自分の考えを表現し、教師が評価したり、指名の順序を工夫したりできるようにした。

<自評>

○5年1組

- ・1組でもすみ子に焦点を当てて、事前授業を行った。
- ・一郎の行動にも目を向けてすみ子と対比させるようにしたが、展開前段の後半ですみ子の人柄を聞いた際には、児童の理解は十分でなかった。

○5年2組

- ・実態としては、男女がお互いに意識はしているが、男子だから女子だからということにあまり捉われないで生活している。
- ・揺れ動いている一郎の気持ちも取り上げなかったので一郎とすみ子の行動と気持ちの両方を追っていった。もう少しすっきりと信頼・友情に迫っていくにはどうしたらよいか。

<協議>

- ・授業者は補助発問をしながらも価値項目を頭に入れておくことが大切。子供たちへのゆさぶりをかける補助発問が必要。
- ・信頼・友情価値項目であれば、すみ子、一郎、たかしの三人ではなくすみ子一人に焦点を当てることは有効だった。
- ・展開後段の「信頼してがんばったことはありますか。」という大きなくりのワークシートだったので、みんなが書きやすく、どの子も書けるものだったので良かった。

指導・助言

文部科学省教科調査官 赤堀 博行 先生

○ねらいとする価値にせまるために(研究主題 関わりあい高め合う子供の育成)

- ・「関わる」とは、他者、集団、社会が自分にとってどういう意味があるかに気付き、積極的に切実な問題意識をもって新たな働きかけをしていくこと。
- ・評価と価値へせまる指名計画、友達との同意点、相違点を考えながら聞くために、ワークシートを活用し、自分の考えを明らかにするという目的がはっきりしている。

○道徳の時間の特質

- ・道徳的価値の理解を図る。
- ・自分とのかかわりで道徳的価値を捉える。
- ・道徳的価値にかかわる思いや課題を培う。

○まとめ

- ・友達に言われてうれしかった言葉はどんな言葉ですかという発問に対して、子供たちは友達のことを思い浮かべて考えている。資料への導入ではなく、ねらいとする道徳的価値に子供たちの意識をしっかりと向けられた導入であった。
- ・協力して成し遂げたことを発表させ、これからももっとしっかりやっていきたいなという思いをもつことができていた。道徳の特質に適った授業だった。